

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術会友の会

〈TEL〉0176-62-5858 〈FAX〉0176-62-5860
〈e-mail〉takayamamuseum@ruby.plala.or.jp



■鷹山宇一⑤「不二に舞ふ蝶」(年不詳/1960年代、キャンバス・油彩、53.0×45.5cm) と ⑥「富士にとぶ」(年不詳/1990年代、キャンバス・油彩、27.3×22.0cm) ■

「不尽、不二、富士……」

日本を象徴する「山」として、国内のみならず海外でも広く知られている「富士」。ひとり聳え立つその気高さ、優美な風貌は、古来より多くの人々を魅了し続けてきました。

「田子の浦ゆ、うち出でてみれば、真白にぞ、不尽の高嶺に、雪は降りける」とは、『万葉集』に収められた山部赤人の有名な歌ですが、かぐや姫で知られる『竹取物語』では、「不老不死の薬を山頂で焼いたこと」から「ふじ(ふじ)の山」と呼ばれるようになった、とも言われ最後の章を飾っています。その語源はまた、我が国最高峰の並ぶものが「不二」の山という意味があったり、その後、「土が富む」と重宝されて、武士が台頭する鎌倉時代以降「富士」と一般化したとも言われたり、諸説様々です。そして、芸術家たちは言うまでもなく題材として取り上げ、作品に残しました。富士山ほど多くの画家に描かれた山はないでしょう。

現存する最古の富士図は、東京国立博物館に収蔵される国宝『聖徳太子絵伝(秦致貞筆、平安時代・延久元(1069)年、10面)』と言われています。また、国内外の多くの人々の脳裏に浮かぶ富士図と言えば、印象派の画家ゴッホや音楽家ドビュッシーなど、ヨーロッパの芸術家たちにも大きな影響を与えた、葛飾北斎の『富嶽三十六景』ではないでしょうか。近現代に至っても横山大観、梅原龍三郎、横山操、片岡球子等々数多くの画家たちが、それぞれの富士図に挑み、多彩に描き出しています。

我が鷹山宇一はと言うと……やはり1960年代には題材として取り上げ、描きはじめていたようです。そして最晩年、1997年に画家は、これから描きたい作品として、あらためて「富士にとぶ蝶」と、明言しています。重鎮をなした画家をこへきてまで「鷹」にする富士の魔力に、あらためて驚かされたものです。

富士は、見る場所、角度、季節、時間、あらゆる場面で様々な表情を見せます。その富士にどんなに画家が手を加え、画家ならではの作品にしようとも、「あの富士」と認識できるようでなければ、富士としては成り立たないように思うのです。富士は存在そのものが大変強烈な個性とパワーを持つ山です。であるからこそ、自分のモノ(作品)にするにはとても難しいテーマであり、難しいからこそ、いつかは描いてみたいと挑むそのような存在ではないかと思うのです。

主を失った鷹山宇一のアトリエには、雑誌から様々な姿形の富士山を切り抜いたスクラップ帳、そして、未完の富士の小品が遺されています。鷹山富士がその後どのように深化したのか、鷹山のモノになった富士をもう少し、見てみたかったなあ、と、心残りです。4月26日から、箱根・芦ノ湖・成川美術館二所蔵の現代日本画による『桜・富士山展』を開催します。それぞれの画家による多様な表現をお楽しみいただくと共に、鷹山宇一の常設コーナーでは「富士」を特集してご紹介する予定です。是非ご鑑賞ください。

(学芸員 大池亜希子)

ミュージアム・コレクション

鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち
鳥谷幡山・平野四郎・上泉華陽

6月20日(土)→7月20日(月・祝)

本年開館15周年を迎えるにあたり、鷹山宇一記念美術館がこれまで収集し、また、寄託(借用)を受けた美術品を中心に、鷹山作品はもとより、当館収集作家として顕彰される鳥谷幡山・平野四郎・上泉華陽各氏の作品や資料を一堂に、あらためてご紹介しようというものです。

寺崎広業門下で中央画壇でも活躍をした日本画家・鳥谷幡山は、十和田湖の神秘性に魅せられ作品に多く残り、その紹介につとめました。

洋画家・平野四郎は、絵を志し、教職に就きながら独自の幻想リアリズムを追求しました。二人は共に七戸町に生まれ、この風土の中で感性を育んだ画家です。

上泉華陽は、山形県米沢市出身。幼い頃より馬に魅せられ、良馬の産地として知られたこの七戸町に移住、地方に在りながら絵筆一本、馬を描き続けた画家として知られています。

ミュージアムコレクションを中心に構成する本展で、七戸町ゆかりの画家たちの作品と、彼らを育んだこの町の風土とをあわせて味わっていただけたらと思います。

● 休館日 / 毎週月曜日
● 入館時間 / 10時~17時30分(閉館18時)
● 入館料 / 一般五百円 学生三百円 小中百円

戦没画学生慰霊美術館

「無言館」祈りの絵画展(仮称)
所蔵作品による

7月26日(日)→9月6日(日)

「お姉さん……生きて還ったらぼくをパリに行かせてくれますか……」

太平洋戦争では、数多くの尊い(生命)が失われました。その中には、戦地へ駆り出され、生きて還つて再び絵を描きたい、そう願ひながら死んでいった、若き画学生たちがいました。

戦没画学生慰霊美術館「無言館」(長野県上田市)は、自らも出征し、また東京美術学校現・東京芸大の仲間を戦争で失つた画家・野見山暁治氏の積年の想いをもとに、これに賛同した「信濃デッサン館」の館主・窪島誠一郎氏がその分館として、全国3000余名にもお



▶「無言館」出品予定 千葉四郎さん「母の顔」
弘前市の造り酒屋に生まれた千葉四郎さんは、昭和13年東京美術学校図案科卒業。改造社、日本映画社などにつとめ、陶芸、彫刻にも才能をみせた。19年青森第五連隊に入営、満州林口において終戦を迎えたが、延吉へ移動後消息を絶つた。戦死公報によれば享年31歳。

よぶ協力者の芳志により、平成9年、開館しました。ここには、遺族の方々が守り続けてきた、絵を志しその思い半ばにして戦場に散つた画学生たちの作品と遺品が収められ、彼らの(生きた証)を今に伝えています。

父・母、妻、愛する人たち、慣れ親しんだ山、河、街並み、故郷の風景……描かれたものたちは何気ない日常の光景ばかりです。しかし、彼らの描いたひとつひとつ、そしてすべてが、掛け替えのない大切なものとして燦然たる輝きを放っていることを見過すことはできないでしょう。生と死が交錯する不穏の時代、避けられぬ非情な現実を前に、純粹に、ただただ一途に「絵を描きたい」ほどはしる情熱が表された作品たちは、私達の心を激しく揺さぶります。そこには、技術の巧拙を超えた、芸術の原点を見る思いがします。

本展は、「無言館」に収蔵された数多の遺作や遺品から、その一端をご紹介するものです。

戦後、64年の歳月が過ぎ行きました。戦争のない戦争を知らない私たちの今のくらしは、物質的には恵まれてはいるものの、どこか、混沌とした時代のただ中に浮遊しているように思えてなりません。そのような今日において、戦時下の限られた時間を「絵を描くこと」に真摯に生きた若者たち、その(生の証)を前に、私たちは立ち止まり、今一度、考えなければなりません。青春の時代に断ち切られた命、遺された家族たちの想い、そして、今を生きる「自分」に眼をそらすことなく、真摯に対峙していただけたなら……、切に願ひ開催いたします。

第69回国際写真サロン展

10月17日(土)→11月6日(日)

当館恒例のこの写真展は、全日本写真連盟主催の国内では最も権威ある写真コンテスト「国際写真サロン」から、入賞作品に選ばれた全130点をご紹介するものです。

様々な国の風景、人々の日常、そして演出写真など、写真表現の可能性に挑戦し、プロ・アマ、国内外を問わず応募できるコンテストならではの、多様な写真表現をご堪能いただける展覧会です。

第9回鷹山賞児童作品展 第9回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

11月16日(日)→11月24日(日)

郷土の画家・鷹山宇一がそうであったように、感性が培われる大切な要素の一つに子ども時代の環境や風土があげられます。青森県南部地方小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験を通して豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを味わってもらえたらと願ひ開催する絵画コンテストです。本展ではその入賞・入選に選ばれた作品を展示するとともに、併せて、財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、世界各国の子どもたちに「地球環境」をテーマに作品を公募した絵画コンテストから優秀作品を紹介いたします。

●美術館日誌●

【12月】

- ▼2日/町立七戸小学校1・6年生来館、鷹山賞等児童画展を鑑賞。
- ▼3日/町立城南小学校5年生来館、鷹山賞等児童画展を鑑賞。
- ▼5日/町立城南小学校4年生来館、鷹山賞等児童画展を鑑賞。鷹山宇一誕生一〇〇周年記念事業実行委員会常任委員会開催
- ▼6日/美術館あつと！くらぶ「キヤンドルづくり」開催
- ▼7日/佐伯、出前ワークショップ開催(七戸町中野子ども会・クリスマスリースづくり・中野地区コミセン)
- ▼8日/鷹山館長・坪青森市出張(鷹山館長NHKアップルワイドに生出演)
- ▼9日/町立七戸小学校2・5年生来館、鷹山賞等児童画展を鑑賞
- ▼10日/鷹山宇一誕生記念日「遊蝶記」、無料開館の実施、遊蝶記の集いを開催
- ▼13日/美術館あつと！くらぶ「はぎれでクリスマスリースづくり」開催。鷹山館長青森市出張(青い森ファンド中間報告)。鷹山宇一誕生一〇〇周年記念事業実行委員会開催(杉屋敷)。鷹山宇一百寿の祝い開催(杉屋敷)
- ▼14日/WOOD CUTTERS CLUB「クリスマスガーランドづくり」開催
- ▼16日/ABA青森朝日放送鷹山賞等児童画展をTV取材
- ▼17日/鷹山館長東京都出張(二科会西野嘉斎先生ご逝去に際し申問)

- ▼19日/鷹山館長・佐伯、十和田市出張(法興小学校野坂先生と打合せ)
- ▼20日/七彩会油絵教室開催日
- ▼24日/消防設備定期点検昭和電気
- ▼25日/佐伯十和田市出張(上北凶工教育ゼミナールに出席、二本木小学校)
- ▼27日/友の会会報53号発送作業
- ▼29日/年末年始休館(新年1月2日迄)

【1月】

- ▼1日/鷹山ひばり館長青森県立美術館長に就任、当館館長代行に戸館昭吉氏就任
- ▼3日/美術館2009年仕事はじめ
- ▼7日/美術館電気設備定期点検(佐藤電気)
- ▼9日/戸館館長代行・坪青森市出張(原美等へ挨拶)
- ▼16日/戸館館長代行商工会新年会に出席
- ▼17日/七彩会油絵教室開催日
- ▼18日/WOOD CUTTERS CLUB「小物入れづくり」開催
- ▼20日/結のまちアート実行委員会に古屋敷・佐伯出席(2F工房)。戸館館長代行七戸町物産協会新年会に出席。美術館スタッフ定例打合せ
- ▼21日/RABサービスタ八戸支店長三浦様、松井様ご来館(青い森鉄道イメージキャラクター等制作)コンテストワークショップ打合せ
- ▼22日/戸館館長代行・大池、東京・神奈川・長野出張(H21年度特別展打合せ、24日迄)
- ▼24日/美術館あつと！くらぶ「ペーパークイリングで額絵づくり①」開催

- ▼25日/鷹山賞等児童画展最終日、会期中の入館者1,592人
- ▼26日/佐伯新幹線七戸駅開業実行委第5回観光振興部会に出席(七戸庁舎)
- ▼27日/館内整備・展示替えのため臨時休館(2/6迄)。美術館スタッフ定例打合せ。青森スバル川端様ご来館(美術館公用車購入打合せ)
- ▼28日/県南環境保全センター七戸支店長横手様、鈴木様ご来館(重油タンク定期点検打合せ)。鷹山賞展仮設壁撤去(宮澤看板)
- ▼29日/鷹山宇一誕生一〇〇周年記念事業実行委員会監査会開催
- ▼30日/RAB青森放送十和田支局長坂牛様、RABサービスタ和田支店楠美様ご来館(成川美術館展打合せ)。戸館館長代行・大池青森市出張(青森県教委福利厚生課・公益法人打合せ、NHK青森放送局・無言館展打合せ)
- ▼31日/美術館あつと！くらぶ「ペーパークイリングで額絵づくり②」開催。友の会役員会及び新年会(杉屋敷)

【2月】

- ▼4日/七戸町城南保育園すみれ組・ちゅうりっぷ組・ひまわり組園児ご来館、鷹山宇一の作品を鑑賞
- ▼5日/絵馬懇談会を開催(2F工房)
- ▼7日/第4回鷹山宇一誕生一〇〇周年記念事業実行委員会開催。当財団平成21年第1回理事会開催
- ▼8日/WOOD CUTTERS CLUB「ジュエリーボックスづくり」開催。JTB東北主催七戸モニタツアー参加者40名様ご来館

- ▼9日/6時〜9時まで美術館停電(東北電力)。戸館館長代行・大池青森市出張(RAB本社・成川美術館展打合せ)
- ▼11日/青森スバル自動車川端様、富士火災保険倉岡様ご来館(美術館公用車打合せ)
- ▼12日/七戸ロータリークラブ例会を当館2F工房において開催、鷹山作品をご鑑賞。佐伯七戸町商工会にてコミニティサイト「わのまち七戸」打合せ。美術館スタッフ定例打合せ
- ▼15日/WOOD CUTTERS CLUB「ジュエリーボックスづくり」開催
- ▼17日/戸館館長代行十和田市出張(十和田湖広域観光協議会第3回総会に出席)
- ▼18日/Jサポート中里様、鈴木様ご来館(当財団HP制作打合せ)
- ▼20日/自動ドア定期点検(ナブコ)
- ▼21日/モデル撮影会写真コンテスト表彰式(2F工房、全日写真連七戸支部主催)。高文連美術部(青森市内の高校生徒引率教員27名様)ご来館
- ▼22日/七彩会油絵教室開催日
- ▼24日/佐伯「官・学連携による地域振興プロジェクト結果報告会」に出席(七戸町中央公民館)
- ▼26日/エール企画社長出羽様、長内様ご来館(成川美術館展グッズ打合せ)
- ▼28日/佐伯、出前ワークショップ開催(七戸町蒼前子ども会・おひな様の壁掛けづくり・柏葉館)

- ▼28日/佐伯、出前ワークショップ開催(七戸町蒼前子ども会・おひな様の壁掛けづくり・柏葉館)



わたしの
おすすめ
美術館

山陰の小京都津和野：
安野光雅美術館

十和田市 下山恭美子



安野光雅美術館（津和野駅前から）

駅に降り立つとそこは、安野光雅の絵の世界そのものでした。青野山を背景にした城下町、黒瓦屋根の土塀が続き、菖蒲が咲き乱れる堀割りには色とりどりの大きな鯉が群れて

います。これまでばらばらに抱いていた、山陰の小京都と言われる津和野のイメージに溶け込むように駅前の一隅を占めているのが『安野光雅美術館』です。

館は、本館展示室と別館学習室からなり、収蔵する絵画や冊子・資料などの四千点は、安野の画業の豊かさを物語っていると思います。

企画展中の展示室には特別公開としての装丁画の他、わが美術館の企画展にお借りした懐かしい作品にも再会でき、楽しくゆったりとした一時を過ごすことができました。また、別館学習室は校舎を再利用したのかと見紛う「昔の教室」や、ご自分のアトリエ、図書室、プラネタリウムまでも備えた文化教育施設として様々な事業を地域に発信しているという事です。

学芸員の志賀万有美さんにお礼のご挨拶を申し上げた後、館外に出ると、モクモクと煙を吐くSL列車が停車中！光雅の絵が現実には飛び出したような……昔懐かしい子どもの頃にタイムスリップしたような……突然の眩しい日の光に軽いめまいを覚えた隙の中に、安野光雅の絵が鮮やかに甦ってきて、この館訪問の幸せをしみじみと味わったものでした。

安野光雅
美術館へは

- 0856-72-4155
- JR津和野駅前
- 開館時間 9:00 ~ 17:00
- 年中無休
(但し、年末年始、特別展準備期間を除く)
- 観覧料 一般 800円
- ☆特別展は別途観覧料を設定

会員のお便り

シートルから

野谷善達

会報わざわざ遠くまで郵送いただき有り難うございました。楽しく拝読いたしました。たまには幡山の絵を展示いただき、感謝いたしております。遠いので、なかなか見に行けず残念です。

シアトルも既に秋となり、毎日のように雨が降り始めました。七戸は如何でしょうか？柿の木が色づき、小春日和の七戸を勝手に想像致しております。



野谷善達ご夫妻

友の会の会員の方の美術館巡りが続いておるようですが、米国東海岸にも米国の財力で欧州から集めた大変すぐれた作品が多く集められております。一度是非見学していただきたいと、常々思っております。(10月)

ご無沙汰致しておりますが、皆様お変わりございませんでしょうか。私共はお陰様で元気で時折旅行を楽しんでおり、今年アルゼンチンタングを聴きに参りました。また、美術館を訪問することを念願致しております。

みなさま よいお年をお迎え下さい。(12月・クリスマス)

野谷善達氏は、鷹山宇一記念美術館収集作家の一人である鳥谷幡山のお孫さんで、現在はアメリカのシアトルにお住まいです。当美術館開館に際し、幡山作品を多数寄贈下さり、七戸には数回訪れております。

この度、メールとグリーティングカードを友の会に戴きました。

編集後記

★桜の香りが南の方から聞こえて来ます。美術館にも満開の桜と富士山が春爛漫の世界を醸し出すことでしょう。楽しみです。会員で監視ボランティア協力出来る方は美術館までご連絡を。
★新館長が決定。新たな体制での美術館をこれまで以上に応援して参りたいと考えております。会員の皆様よろしくお願ひいたします。

(E.T)

平成21年度友の会第1回国内研修旅行

「ウィーン美術史美術館所蔵」静物画の秘密展



《薔薇色の衣装の
マルガリータ王女》
ベラスケス作(日本初公開)
(青森県立美術館パンフレットより転載)

《ウィーン美術史美術館所蔵「静物画の秘密展」》

好評の友の会研修旅行。平成21年度第一回目の研修旅行です。「ウィーン美術史美術館」は、スペインやオーストリアなどを支配したヨーロッパ最大の王家、ハプスブルク家のコレクションを一堂に集めた世界屈指の美術館です。その数多くの所蔵品のなかから、「静物画の秘密」をテーマに「珠玉の名作75点」(青森県立美術館パンフレットより引用)を鑑賞後、山形大学の元木幸一教授の「剥きかけのレモンと倒れたグラス」静物画を読み解く」と題する講演を聴講致します。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆ 研修先 青森市 青森県立美術館
- ◆ 日時 平成21年4月29日(水・祝日)
- ◆ 募集人員 先着35名
- ◆ 参加費 3,500円(バス代、入館料、昼食代を含みます。)
- ◆ 申込期限 平成21年4月18日(土)
- ◆ 日程
 - ▽午前8時30分 七戸南公民館出発〜鷹山美術館〜(有料道路経由)
 - ▽午前10時 青森県立美術館着
 - ▽午後12時 昼食(青森市内)
 - ▽午後1時30分 講演会聴講
 - ▽午後3時30分 バス集合・出発(有料道路経由)
 - ▽午後5時頃 七戸南公民館着。解散
- ◆ お申し込み・お問い合わせ先 鷹山宇一記念美術館
- 電話 0176(62)5858

友の会会員登録の更新と

新規会員登録入会お誘いのお願い

平素会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。

今年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に「一層親しんでいただけるよう」研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。各位のご協力をお願いいたします。

○友の会事業内容

- ① 県内外美術館鑑賞旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行(00年スペイン・パリ、04年イタリア、07年南仏・パリ)
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費(個人) 年度会費3千円

特典

- ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

○特別会員

年会費(個人・法人) 年度会費1万円

特典

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

年会費(個人・法人) 年度会費2万円

特典

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

■詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。